

## 「三日月と金星の大接近(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

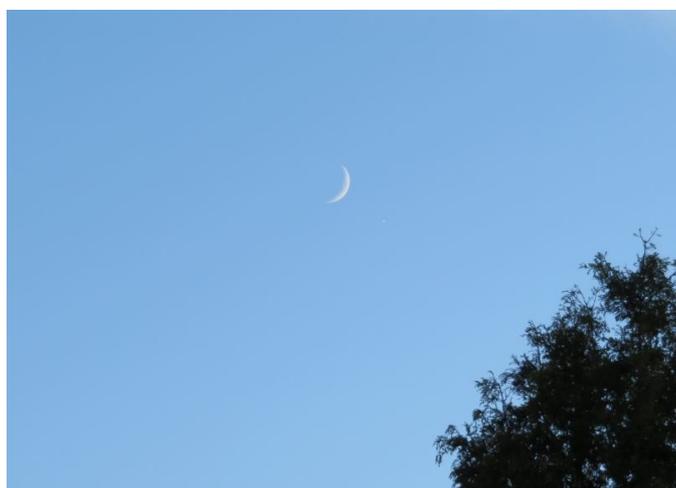
田中 千尋 Chihiro Tanaka

今日(11月8日)は、三日月(正確には「三日月型の月」と金星が「大接近」する日である。事前にプリントを配布して「宣伝」してあったので、3年生の子どもたちも、朝から「今日、金星見えるかな〜?」と楽しみにしていた。しかし天気予報では、午後から曇ってきて、夜は雨。私はこの天体ショーの観望は半ばあきらめていた。しかし、午後2時頃から陽が射し始め、夕方の4時過ぎには職場上空はほぼ快晴になった。

から見える天体の中では、太陽、月に次いで明るい。内惑星である金星は、常に太陽に近い位置に見えるので、真夜中に見えることは決してない。見えるのは日没直後か、日の出前だけだ。それぞれ「宵の明星(みょうじょう)」「明けの明星」と呼ばれている。



今回見えた金星は、もちろん「宵の明星」である。「宵の明星」と「三日月」は見え方や動きがよく似ている。夕方の南西の空に見えて「太陽を追うように」沈むということだ。今回は「見かけ上の接近」だが、時には完全に重なって見えることもある。もちろん月のほうが手前で、金星が背後で「金星食」と呼ばれている。月がこんなに大きいのだから、頻繁に隠されそうに思えるが、意外にも非常に稀な天文現象である。



校舎の屋上に出てみると、まだ明るいのに、青空の中にもう月が見えていた。



よく見ると、月の右下に小さな輝点がある。どうやら金星も見えているようだ。金星は-4.5等と、地球

実は、今日(2021年11月8日)に「金星食」が起きていた。ただし時刻は14時前後で、空が明るかったので、かなりの観測のベテランが、ちゃんとした機材を使わないと観測は難しかったと思われる。上図は、14:37に金星が月の縁から現れた様子のシミュレーションである。金星食のあと、月も金星も西に向かって日周運動で動いて見えたが、月のほうが動きが遅いので、夕方にはやや離れて見えたわけである。